

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年4月17日に「平成30年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領：文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 平成30年4月17日（火）

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査（国語・算数・理科）

主として知識に関する問題 国語A、算数A

主として活用に関する問題 国語B、算数B

主として知識・活用に関する問題 理科

②中学校の教科に関する調査（国語・数学）

主として知識に関する問題 国語A、数学A

主として活用に関する問題 国語B、数学B

主として知識・活用に関する問題 理科

③児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

○在籍児童・生徒数

小学校6年生 16校 1,355人

中学校3年生 9校 1,192人

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。
平均値とともに集団における代表値としてとらえられます。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。
標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味します。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査（平均正答率：単位％）

○全体の傾向

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
鎌倉市	H30	69	54	64	53	60
	H29	75	61	80	50	—
神奈川県 (公立)	H30	70	54	64	52	60
	H29	73	57	77	46	—
全 国 (公立)	H30	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
	H29	74.8	57.5	78.6	45.9	—

中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
鎌倉市	H30	80	66	72	54	70
	H29	81	78	70	54	—
神奈川県 (公立)	H30	76	62	66	48	66
	H29	77	72	64	48	—
全 国 (公立)	H30	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
	H29	77.4	72.2	64.6	48.1	—

※文部科学省からの公表結果が、平成29年度から全国平均正答率のみ小数第一位までの数値で、県平均正答率、市平均正答率は整数値に変更となった。

小学校では、全国・県の公立平均正答率と概ね変わらない結果であった。中学校では、全国・県と比べ良好な結果であった。特に、中学校の数学A、数学B問題は、全国・県の公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。これは、今までと同

様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

※記号について（神奈川県教育委員会の分析基準に準拠）

◇・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※領域別分析の文末（ ）内に問題番号、市平均正答率

【小学校 国語】

《概要》

国語A「主として知識に関する問題」国語B「主として活用に関する問題」ともに結果は全国平均と概ね変わらない。

記述式の問題については、正答率がやや低く、無回答率が高めである。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることや、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題が見られる。

国語A・国語B共に最終問題での無回答率（A15.0% B18.1%）が高く、国語Aでは、漢字を正しく使う能力とともに、回答時間が足りなかったことも理由と見られ、処理能力の面で課題が見られる。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

◇該当なし

◆該当なし

書くこと

◇該当なし

◆該当なし

読むこと

◇該当なし

◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。（B3二）（46.4%）

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

目的を明確にした上で全体の構成を把握しながら読むこと、必要な叙述を選び、他の部分に書かれてい

る叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えたことなどを関係付けたりしながら自分の考えをまとめていく活動の充実。

○対応した具体例

根拠となる叙述を取り上げて、その理由を説明する学習活動を多くの場面で取り入れる学習。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇該当なし

- ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 (A8 エ) (管理 59.5%)
(A8 オ) (積極的 45.3%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや文脈での使い分けに着目できるように指導することの充実。漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深める学習につなげていくことの充実。

○対応した具体例

同じ音で読む漢字を集める、似た形の漢字を集める、間違えやすい漢字を集める学習。正しく意味が伝わるように、ふさわしい言葉や漢字を選択し、書く学習。

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

漢字の指導に当たって、繰り返しの練習だけにとどまらず、どのような使われ方をするか興味を持ったり、漢字の持つ意味などを理解したりして習得できるように指導することが大切である。

「書くこと」の力の充実に向けては、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりして書くことの学習を充実させ、情報の取り上げ方や効果的な書き方について指導することや、自分の考えを根拠や理由を明らかにして書く活動を、多くの学習場面で取り上げることが必要である。

【小学校 算数】

《概要》

調査の結果は、算数A「主として知識に関する問題」では、全国平均と概ね変わらず、算数B「主として活用に関する問題」では、全国平均よりもやや高かった。

算数A「主として知識に関する問題」では、領域別では、量と測定、図形、数量関係が全国平均よりやや高かった。観点別では、数量や図形についての技能が全国平均よりやや低かった。算数B「主として活用」では、すべての領域、観点で、全国平均よりやや高かった。問題形式別では、短答式、記述式の正答

率が全国平均よりやや高かった。

問題別でみると、除法で表すことができる二つの数量の関係の理解に関する問題や、異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方の理解に関する問題については、正答率が高く全国平均より上回っている。一方、小数の除法の意味について理解や、情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題や、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する問題について正答率が低く全国平均よりやや下回っている。算数Aでは、1に当たる大きさを求める問題で、全国平均より低かった。

無回答率は、全体的に全国平均より高く、算数の問題を解くことに関して最後まで粘り強く解いていこうとする姿勢に課題が見られる。

《領域別分析》

数と計算

◇除法で表すことができる二つの数量の関係を理解すること。(A1(1)) (72.7%)

◆1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと。(A1(2)) (61.5%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表す学習の充実。

○対応した具体例

針金の長さや重さの関係を捉えるのに、テープの図と数直線を用いて、テープの図に数直線をかき加えた上で、テープの図をとり数直線のみで表すなどして、長さや重さの関係を的確に捉えることができる学習。

量と測定

◇該当なし

◆該当なし

図形

◇該当なし

◆該当なし

数量関係

◇除法で表すことができる二つの数量の関係を理解すること。(A1(1)) (72.7%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、おおむね基礎的・基本的な知識・技能は定着していると考えられる。

「主として活用に関する問題」の領域は、全国よりやや高い正答率となっている。今後、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫、改善が必要となる。

数と計算の領域では、問題を解決する過程で、数量の関係を捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動を位置付け、計算の意味の理解を基に演算決定をすることができるようにすることが大切である。また、グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ったり、目的に応じてグラフを新たに作り、複数のグラフを関連付けて考察したりすることができるようにすることが大切である。

全体的に無回答率が高く、問題に最後まで取り組もうとする姿勢に課題があり、充実した学習指導が必要である。

【小学校 理科】

《概要》

調査の結果は、市の平均正答率は全国平均と概ね変わらなかった。

観点別では、自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能について良好な結果であり、ろ過をするための器具の適切な操作方法を身に付けているといえる。

区分別では、A区分の物質が全国平均よりやや高く、A区分のエネルギー、B区分の生命、地球のそれぞれについては概ね全国平均と変わらない結果であった。問題形式別では、短答式、記述式について、全国平均よりやや低く課題がある。

問題形式別において、記述式の問題を解くことにやや課題があり、より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題において正答率が低く、全国平均よりもやや下回っていた。

《領域別分析》

物質

◇物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。(4(3)) (49.3%)

◆該当なし

エネルギー

◇該当なし

◆該当なし

生命

◇該当なし

◆骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している。(1(3)) (70.8%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

科学的な言葉や概念を理解するために、実際の自然の事物・現象に適用して説明する場面の充実。

○対応した具体例

主体的な学習を進め、児童が学習したことをまとめる際に、科学的な言葉に置き換えて繰り返し説明できる学習。

地球

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

科学的な言葉や概念の理解が不十分であった。知識習得のため、児童の問題意識のもと、主体的に問題解決をした結果を科学的な言葉に置き換え、獲得していくような学習と獲得した科学的な言葉を使用して説明する学習などが必要である。

【中学校 国語】

《概要》

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」とともに結果はおおむね良好である。

領域では「話すこと・聞くこと」においては、おおむね良好な結果である。「書くこと」においては、全体としては良好な結果であるが、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。

「読むこと」においては、全体としては良好な結果であるが、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、おおむね良好な結果であるが、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて一部課題がある。また、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことにも課題がある。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

- ◇話合いの話題や方向を捉える。(A6 一) (77.9%)
- ◇話合いの話題や方向を捉えて的確に話す。(A6 二) (72.0%)
- ◆該当なし

書くこと

- ◇書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する。(A4 一) (70.5%)
- ◇段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする。(A4 二) (86.3%)
- ◇目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。(B1 三) (19.2%)
- ◆該当なし

読むこと

- ◇場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。(A3 二・B3 一) (89.1%・85.5%)
- ◇段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる。(A5 一) (83.0%)
- ◇文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える。(B1 一) (53.3%)
- ◇文章の構成や展開について自分の考えをもつ。(B1 二) (72.4%)
- ◇目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。(B1 三) (19.2%)
- ◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。(A8 三ア・オ) (83.0%・67.1%)
- ◇目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。(A8 四 2) (34.4%)
- ◇行書の基礎的な書き方を理解して書く。(A8 五) (62.8%)
- ◇古典に表れたものの見方や考え方を理解する。(A8 六 3) (86.6%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

国語A・Bともにすべての設問において正答率は全国平均より高いものの、全国と同様に正答率が低かった設問については課題とすべきである。

「書くこと」においては、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。「読むこと」においては、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えて理解するように指導することが大切である。また、グラフや図表などが用いられている文章については、書き手の意図や読み手に与える効果についても考えさせるような指導も大切である。そして、情報を整理して内容を的確に捉え、まとめて書く活動へとつなげる授業の工夫が大切となる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。文章を書く指導に当たっては、主語・述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書かれているかを常に意識させることが大切である。また、語感を磨き語彙を豊かにする指導の工夫も大切である。新しく出会った語句や漢字については、その意味を辞書などで確認するように習慣付けることと話や文章の中で実際に使用することができるように指導することが大切である。

【中学校 数学】

《概要》

数学A「主として知識に関する問題」、数学B「主として活用に関する問題」とともに良好な結果であり、平均正答率においても、ともに全国平均より大きく上回っている。

領域別では「数と式」において、等式を目的に応じて変形することが全国平均に比べて大きく上回っているが、数学的な表現を用いて説明することにやや課題がある。「図形」においては、証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことが全国平均よりも大きく上回っている。「関数」においては、一次関数における x の値の増加に伴う y の増加量を求めることについては全国平均よりも大きく上回っている。一次関数の意味の理解や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することも全国平均を上回っているが正答率が低く、やや課題であると捉える必要がある。「資料の活用」において、表などを利用して、確率を求めることが高い正答率である。

無回答率は、全体的に全国平均より低く、数学の問題を解くことに関して最後まで粘り強く解いていこうとする姿勢に課題が見られる。

《領域別分析》

数と式

- ◇数量の大小関係を不等式に表すことができる。(A2(1)) (49.3%)
- ◇文字式に数を代入して式の値を求めることができる。(A2(3)) (85.4%)
- ◇具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる。
(A2(4)) (62.2%)
- ◇方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している。(A3(1)) (73.9%)
- ◇着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる。
(A3(4)) (80.5%)
- ◇事柄が成り立つ理由を、構想を立てて証明することができる。(B2(2)) (53.3%)
- ◇3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる。(B2(3)) (73.6%)
- ◆該当なし

図形

- ◇折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している。(A4(2)) (61.6%)
- ◇回転移動した図形をかくことができる。(A4(3)) (73.9%)
- ◇空間における平面と直線との位置関係(面と辺が平行であること)を理解している。(A5(1)) (81.8%)
- ◇四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解している。(A5(4)) (64.7%)
- ◇三角形の外角と、それと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している。(A6(1)) (81.5%)
- ◇2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している。(A7(1)) (77.1%)
- ◇証明の必要性和意味を理解している。(A8) (54.1%)
- ◇証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる。(B4(1)) (68.2%)
- ◇発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる。(B4(2)) (53.2%)
- ◇付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。(B4(3)) (51.4%)
- ◆該当なし

関数

- ◇比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している。(A9(1)) (74.2%)
- ◇与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。(A9(2)) (64.9%)
- ◇座標平面上に点の位置を示すことができる。(A10) (78.3%)
- ◇一次関数について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めること。(A11(1)) (55.4%)
- ◇連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している。(A13) (68.9%)
- ◇事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる。(B3(1)) (73.5%)
- ◇グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる。(B3(2)) (84.9%)
- ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(B3(3)) (19.2%)
- ◆該当なし

資料の活用

- ◇最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している。(A14(1)) (75.7%)
- ◇多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。(A15(1)) (47.9%)
- ◇表などを利用して、確立を求めることができる。(A15(2)) (83.0%)
- ◇与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。(B1(1)) (63.5%)
- ◇不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(B1(3)) (45.7%)
- ◇与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。(B5(1)) (23.0%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、概ね基礎的・基本的な知識・技能は定着しているものと考えられる。さらに「主として活用に関する問題」においても、全国平均に比べて高い正答率となっている。今後も、各領域の基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫・改善が必要となる。

このほか、問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。また、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにすることや、表、式、グラフなどから得られた結果を事象に即して解釈し、その事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする指導が必要となる。

【中学校 理科】

《概要》

全体の正答率は全国・県平均を上回っており良好な結果と言える。

分野別では、第1分野「物理的領域」「化学的領域」、第2分野「生物的領域」「地学的領域」のそれぞれについて良好な結果であった。

評価の観点別では、4つの観点のうち「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」が良好な結果であった。

問題形式別では、いずれの形式においても全国平均と比べ、良好な結果であった。

《領域別分析》

物理的領域

◇光の反射について科学的に探求する。(1(1)) (67.6%)

◇電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係について知識・技能を活用できるか。

(6(1)～(3)) (76.7%) (84.5%) (57.3%)

◆該当なし

化学的領域

◇化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。(4(3)) (56.9%)

◇火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探求して知識・技能を活用することができる。

(8(1)～(3)) (89.3%) (78.6%) (81.5%)

◆濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。(2(2)) (37.5%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

質量パーセント濃度の理解を高めるために具体例をあげて指導することの充実。

○対応した具体例

質量パーセント濃度の概念を正確に身に付けるために、生活で使用するいろいろな水溶液について、どの物質が「溶媒」「溶質」「溶液」なのかを例をあげて具体的に示す。また、濃度が変化することと溶質や溶媒の質量が変化することの関連付け、溶質と溶液の質量から濃度を導く学習や、逆に濃度が判っているときに溶質や溶液の質量を導く学習。

生物学的領域

- ◇アサリが出す砂の質量が何に関係しているのかを科学的に探求する。(2(3)) (84.9%)
- ◇1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。(2(4)) (68.5%)
- ◇反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる。(5(2)) (68.5%)
- ◆該当なし

地学的領域

- ◇台風の進路や風向きを科学的に探求する。(3(1)～(3)) (43.8%) (79.1%) (60.8%)
- ◇植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。(9(2)) (26.4%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

観察・実験の結果を分析して解釈する学習活動を充実させるために、観察・実験の結果を予想や仮説と比較したり、今までに習得した知識・技能と関連付けて考えたりする視点を明示的に指導することが大切である。

理科で学習したことが日常生活や社会と深く関わりをもっていることや、様々な原理や法則が科学技術を支えていることに気付かせ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する学習活動を充実する取組をしていきたい。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

※記号について

◇良好と認められる点 ◆課題のある点

※文末（ ）内は設問番号

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

○規範意識・自尊感情

- ◆先生によいところを認めてもらっていると感じている児童の割合は 83.7%で、全国（84.0%）より低い。(2)
- ◆学校のきまりを守っている児童の割合は 83.5%で、全国（89.5%）より低い。(4)
- ◆いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童の割合は、全国とほぼ同じであるが、約5%の児童は当てはまらないと思っている。(5)

◎学校生活について

○算数への関心

- ◆算数の勉強が好きな児童の割合は 59.9%で、全国（64.0%）より低い。(27)
- ◆算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う児童の割合は 69.8%、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合は 59.2%で、全国（それぞれ 74.3%、64.4%）より低い。(30) (32)

○理科への関心

- ◇理科の授業で、理科室で観察や実験を週1回以上行ったと答えた児童の割合は 92.7%で、全国（89.1%）より高い。(46)
- ◆理科の勉強が好きな児童の割合は 79.9%、理科の勉強は大切だと思う児童の割合は 81.1%で、全国（それぞれ 83.5%、85.4%）より低い。(38) (39)
- ◆理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合は 58.4%、学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思う児童の割合は 66.9%で、全国（それぞれ 64.7%、72.9%）より低い。(42) (43)
- ◆理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると答えた児童の割合は 65.4%、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている児童の割合は 58.0%で、全国（それぞれ 75.2%、68.1%）より低い。(48) (50)
- ◆5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った児童の割合は 84.4%、習ったことに関わることで、もっと知りたいことがでてきたと答えた児童の割合は 68.7%、全国（それぞれ 87.5%、75.1%）より低い。(52) (53)

○5年までの学習

◇5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う児童の割合は64.9%で、全国(61.0%)より高い。(56)

◆5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童の割合は73.3%で、全国(76.7%)より低い。(55)

○解答時間

◆国語A・B及び算数Aでは、解答時間が余った児童の割合はそれぞれ71.5%、67.5%、70.9%で、全国(それぞれ80.0%、74.7%、80.3%)より低く、足りなかった児童の割合は、全国より高い。

(58) (59) (60)

◎家庭生活について

◇朝食を毎日食っている児童の割合は89.9%で、全国(84.8%)よりやや高い。(7)

◇平日、学校の授業時間以外に、2時間以上勉強をしている児童の割合は39.7%、1時間以上読書をしている児童の割合は26.6%で、全国(それぞれ29.3%、19.3%)より高い。(14) (15)

◇放課後に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している児童の割合は48.2%で、全国(32.2%)より高く、習い事をしている児童の割合も61.1%で、全国(46.5%)より高い。(16)

◇週末に、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している児童の割合は34.5%で、全国(25.7%)より高く、習い事をしている児童の割合も47.8%で、全国(43.4%)より高い。(17)

◆家で、学校の宿題をしている児童の割合は93.8%、授業の予習・復習をしている児童の割合は49.8%、家で教科書を使いながら学習している児童の割合は58.1%で、全国(それぞれ97.1%、62.6%、69.9%)より低い。(11) (12) (13)

◎地域生活について

◆5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思っている児童の割合は69.7%で、全国(74.4%)より低い。(19)

◆今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は55.1%、地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童の割合は60.2%で、全国(それぞれ62.7%、62.6%)より低い。(20) (23)

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、基本的な生活習慣については概ね良好と考えられる。また、自尊感情、規範意識については若干の課題がみられる。特に、いじめやきまりに関しては全国平均を下回っており、道徳や日常の場面での規範意識の醸成を十分に行うことが大切であると考えられる。

◎学校生活について

算数や理科の学習状況で若干の課題が見られる。特に、算数や理科の勉強への関心や生活の中での活用、将来社会に出たときに役に立つ学習と考えている児童の割合は、全国よりも低くなっている。解答時間に関しても全体的に解答時間が余った生徒の割合よりも、足りない児童の割合のほうが全国よりも高く、原因として、全体を見通した解答時間の配分が難しいということが考えられる。今後は、各教科の横断的な学習により、発展的な学習内容に取り組む学習活動や、自ら問題を見つけ、総合的に解答を見つける学習活動が大切であると考えられる。

◎家庭生活について

学習習慣においては、学校の授業時間以外の学習や読書が良好であると考えられるが、宿題や予習・復習をしている児童は少なく、放課後や週末には、学習塾など学校や家以外の場所勉強している児童や、習い事をしている児童の割合が高いので、日常的に塾や家庭教師での時間が多いと考えられる。このことから、今後は家庭学習の充実に向けていく必要があると考えられる。

◎地域生活について

地域・社会への関心では、地域の調べ学習や地域の人と関わる機会が全国の平均よりも若干低い。また、地域行事への参加やボランティア活動への参加に課題がみられる。今後、新学習指導要領の全面実施においては、社会に開かれた教育課程の編成を目指し、児童へ地域社会での行事やボランティアへの参加をよびかけたり、学校へ外部講師として地域の方の参加を促したりするなど、社会に開かれた教育課程の視点を持ち、地域社会との共同学習の機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

○規範意識・自尊感情

- ◆先生によいところを認めてもらっていると感じている生徒の割合は78.1%で、全国(82.2%)より低い。(2)
- ◆学校のきまりを守っている生徒の割合は94.5%で、全国(95.1%)とほぼ同じであるが、約5%の生徒は守っていない。(4)
- ◆いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒の割合は92.7%で、全国(95.5%)より低い。(5)

◎学校生活について

○数学への関心

◇数学の勉強が好きな生徒の割合は 63.2%で、全国 (53.9%) より高い。(27)

◇数学の授業の内容がよく分かると回答した生徒は 78.9%と全国 (71.0%) より高い。(29)

○理科への関心

◇理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒の割合は 51.4%、学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思う生徒の割合は 58.2%で、全国(それぞれ 45.4%、55.7%) より高い。(42) (43)

◇理科の授業で、理科室で観察や実験を週 1 回以上行つたと答えた生徒の割合は 51.9%で、全国 (40.7%) より高い。(46)

◇理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると答えた生徒の割合は 63.4%、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている生徒の割合は 62.2%で、全国 (それぞれ 58.5%、59.0%) より高い。(48) (50)

◆将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う生徒の割合 26.3%で、全国 (22.2%) と同様に低い。(44)

○1, 2 年生の学習

◇1, 2 年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒の割合は 70.0%で、全国 (53.8%) より高い。(53)

○解答時間

◆国語A・B及び数学A・B、理科において、解答時間が余った生徒の割合は、すべて全国より高いが、数学Bで解答時間が足りなかった生徒の割合は、22.8%と他教科と比べて高い。(55) ~ (59)

◎家庭生活について

◇朝食を毎日食べている生徒の割合は 93.6%で、全国 (91.9%) よりやや高い。(7)

◇家で、予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書を使いながら学習している生徒の割合は 77.5%で、全国 (71.3%) より高い。(13)

◇平日、学校の授業時間以外に、2 時間以上勉強をしている生徒の割合は 53.0%、1 時間以上読書をしている生徒の割合は 17.2%で、全国 (それぞれ 36.4%、14.8%) より高い。(14) (15)

◇放課後や週末には、部活動をしている生徒がほとんど (それぞれ 91.0%、76.0%) であるが、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している生徒や、習い事をしている生徒の割合も高い。特に、放課後は 87.4%が学習塾など学校や家以外の場所で勉強や習い事をしており、(全国 59.8%)、部活動と塾・習い事の両方をしている生徒が多いと思われる。(16) (17)

◎地域生活について

◇1, 2 年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思っている生徒の割合は 78.7%で、全国 (68.7%) より高い。(19)

◆今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は 40.1%、地域社会などでボランティア活動に参加したことがある生徒の割合は 66.8%で、全国 (それぞれ 45.6%、73.6%) より低い。

(20) (23)

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、基本的な生活習慣についてはおおむね良好と考えられる。また、自尊感情、規範意識については若干の課題がみられる。特に、いじめやきまりに関しては全国平均を下回っており、道徳や日常の場面での規範意識の指導を十分に行うことが大切であると考えられる。

◎学校生活について

数学や理科の学習状況では、どの項目も全国平均より高い。特に、数学や理科の授業の内容がよく分かると思う割合は、どちらも全国平均より高く、自分の考えや考察をまわりに説明したり発表したりする場面が多いことや、観察や実験の回数が多いことも影響していると考えられる。解答時間に関しては、全体的に解答時間が余った生徒の割合が全国よりも高く、日常的にテストに接しており、問題を解くことに慣れていていると考えられる。数学Bは、時間が足りないと思った生徒がやや多かったので、各教科の横断的な学習により、発展的な学習内容に取り組む学習活動や、自ら問題を見つけ、総合的に解答を見つける学習活動が大切であると考えられる。

◎家庭生活について

学習習慣においては、学校の授業時間以外の学習や読書が良好であると考えられるが、予習・復習をしている生徒は少ない。放課後や週末には、部活動をしている生徒が大半であるが、学習塾など学校や家以外の場所で勉強している生徒や、習い事をしている生徒の割合も高いので、部活動と両立し、日常的に塾や家庭教師での学習、習い事に通っている生徒が多いと考えられる。このことから、今後は家庭学習の充実と、適切な部活動の休養日の設定など、生徒の健康に配慮した教育活動の整備が必要であると考えられる。

◎地域生活について

地域・社会への関心では、地域の調べ学習や地域の人と関わる機会が全国の平均よりも高いわりに、地域行事への参加やボランティア活動への参加は低いので、今後、新学習指導要領の全面実施においては、社会に開かれた教育課程の編成を目指し、生徒へ地域社会での行事やボランティアへの参加をよびかけたり、学校へ外部講師として地域の方の参加を促したりするなど、社会に開かれた教育課程の視点を持ち、地域社会との共同学習の機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

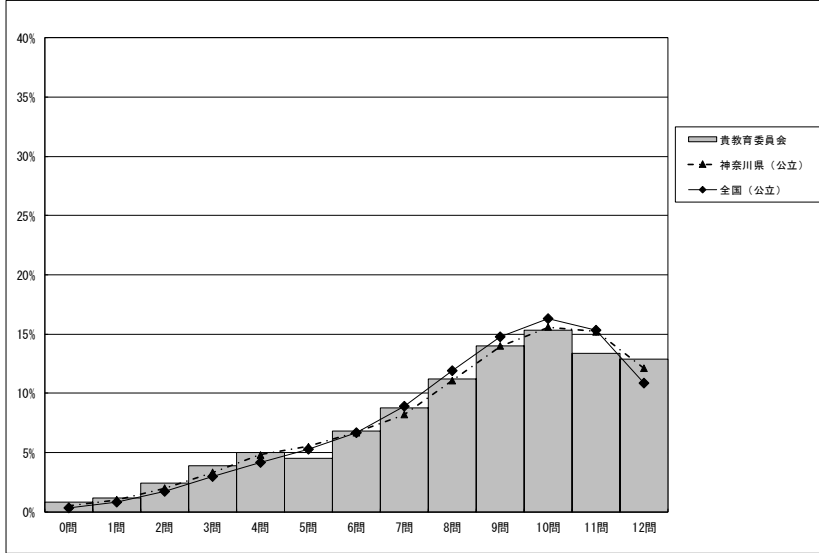
【小学校 国語A・B】

平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【国語A：主として知識】
 鎌倉市教育委員会－児童 小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,318	8.3 / 12	69	9.0	2.9
神奈川県 (公立)	72,895	8.4 / 12	70	9.0	2.8
全国 (公立)	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
12問	170	12.9	12.1	10.9
11問	176	13.4	15.2	15.3
10問	201	15.3	15.6	16.3
9問	184	14.0	14.0	14.8
8問	147	11.2	11.1	11.9
7問	116	8.8	8.2	8.9
6問	89	6.8	6.7	6.7
5問	59	4.5	5.5	5.3
4問	66	5.0	4.8	4.2
3問	51	3.9	3.3	3.0
2問	32	2.4	2.0	1.7
1問	16	1.2	1.0	0.8
0問	11	0.8	0.5	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

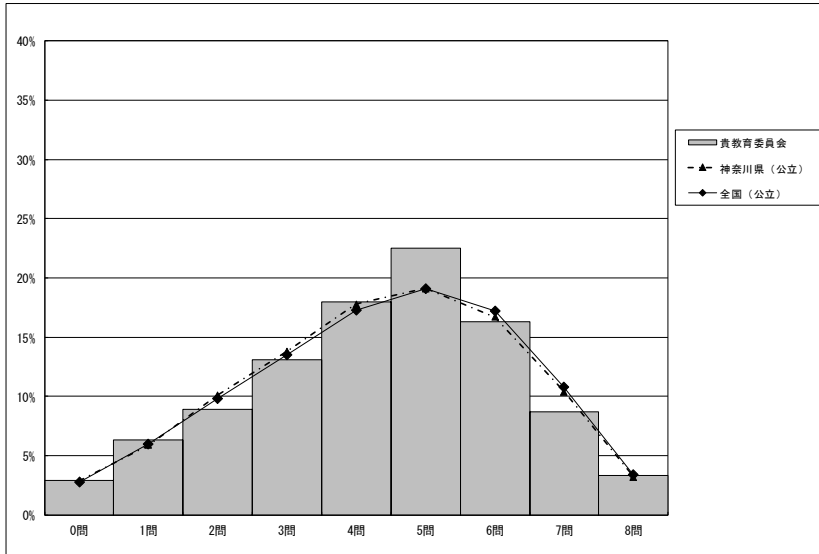
	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【国語B：主として活用】
 鎌倉市教育委員会－児童 小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,318	4.3 / 8	54	5.0	1.9
神奈川県 (公立)	72,874	4.3 / 8	54	4.0	1.9
全国 (公立)	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
8問	44	3.3	3.2	3.4
7問	115	8.7	10.4	10.8
6問	215	16.3	16.7	17.2
5問	296	22.5	19.1	19.1
4問	237	18.0	17.8	17.3
3問	173	13.1	13.8	13.5
2問	117	8.9	10.1	9.8
1問	83	6.3	5.9	6.0
0問	38	2.9	2.9	2.8

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	6.0問	6.0問	6.0問
◇ 第2四分位	5.0問	4.0問	5.0問
▽ 第1四分位	3.0問	3.0問	3.0問

【小学校 算数A・B】

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

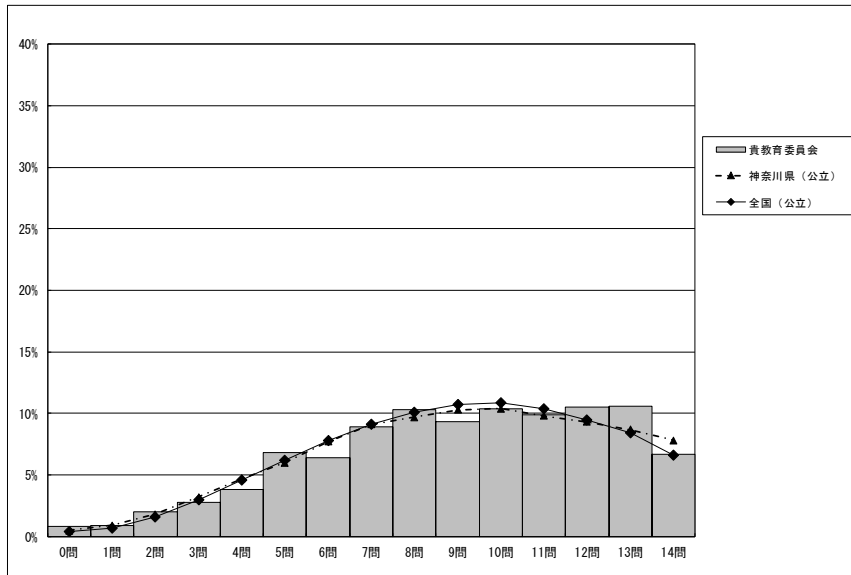
調査結果概況 [算数A：主として知識]

鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,318	9.0 / 14	64	9.0	3.3
神奈川県 (公立)	72,897	8.9 / 14	64	9.0	3.3
全国 (公立)	1,030,013	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
14問	88	6.7	7.8	6.6
13問	140	10.6	8.7	8.4
△ 12問	138	10.5	9.3	9.5
11問	130	9.9	9.8	10.4
10問	137	10.4	10.4	10.9
◇ 9問	123	9.3	10.3	10.7
8問	136	10.3	9.7	10.1
▽ 7問	117	8.9	9.1	9.1
6問	85	6.4	7.7	7.8
5問	89	6.8	6.0	6.2
4問	50	3.8	4.7	4.6
3問	37	2.8	3.2	3.0
2問	26	2.0	1.8	1.6
1問	12	0.9	0.9	0.7
0問	10	0.8	0.5	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

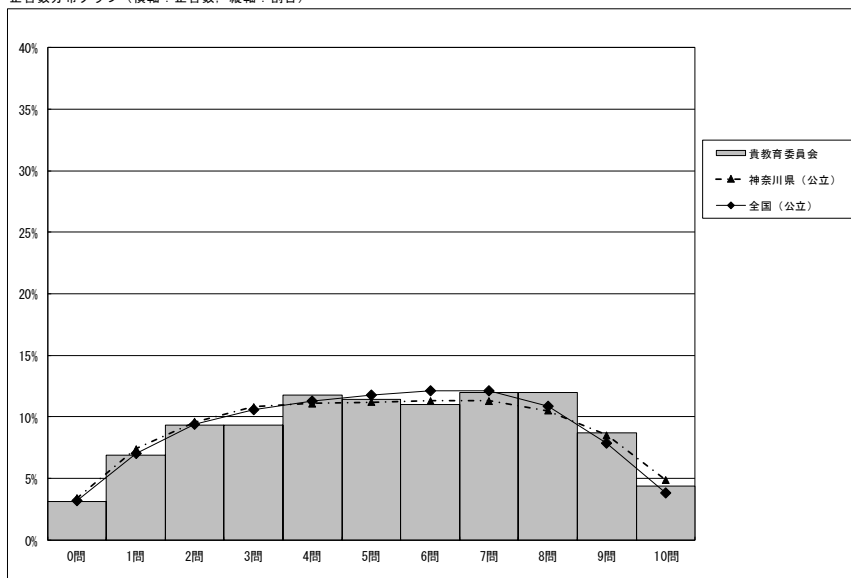
調査結果概況 [算数B：主として活用]

鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,317	5.3 / 10	53	5.0	2.7
神奈川県 (公立)	72,884	5.2 / 10	52	5.0	2.7
全国 (公立)	1,029,847	5.1 / 10	51.5	5.0	2.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
10問	58	4.4	4.9	3.8
9問	115	8.7	8.5	7.9
△ 8問	158	12.0	10.5	10.9
7問	158	12.0	11.3	12.1
6問	145	11.0	11.3	12.1
◇ 5問	150	11.4	11.2	11.8
4問	155	11.8	11.1	11.3
▽ 3問	123	9.3	10.8	10.6
2問	123	9.3	9.6	9.4
1問	91	6.9	7.4	7.0
0問	41	3.1	3.4	3.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	8.0問	7.0問	7.0問
◇ 第2四分位	5.0問	5.0問	5.0問
▽ 第1四分位	3.0問	3.0問	3.0問

【小学校 理科】

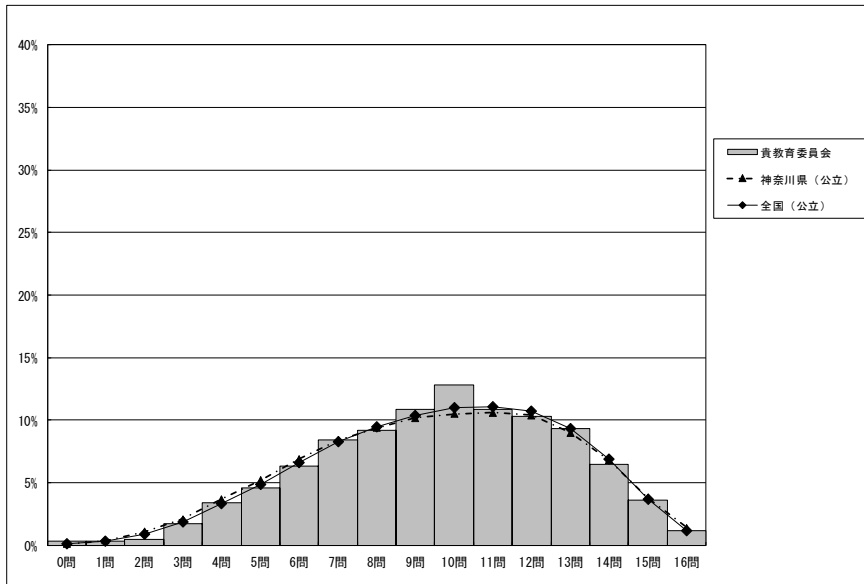
平成30年度全国学力・学習状況調査
 調査結果概況 [理科]
 鎌倉市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,317	9.7 / 16	60	10.0	3.2
神奈川県 (公立)	72,894	9.5 / 16	60	10.0	3.3
全国 (公立)	1,029,828	9.6 / 16	60.3	10.0	3.2

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
16問	16	1.2	1.4	1.2
15問	48	3.6	3.8	3.7
14問	85	6.5	6.8	6.9
13問	122	9.3	9.0	9.3
△ 12問	135	10.3	10.4	10.7
11問	143	10.9	10.6	11.1
◇ 10問	168	12.8	10.5	11.0
9問	143	10.9	10.2	10.4
8問	121	9.2	9.4	9.5
▽ 7問	110	8.4	8.4	8.3
6問	83	6.3	6.9	6.6
5問	60	4.6	5.2	4.9
4問	45	3.4	3.7	3.3
3問	23	1.7	2.1	1.9
2問	7	0.5	1.1	0.9
1問	4	0.3	0.4	0.3
0問	4	0.3	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

【中学校 国語A・B】

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語A：主として知識]

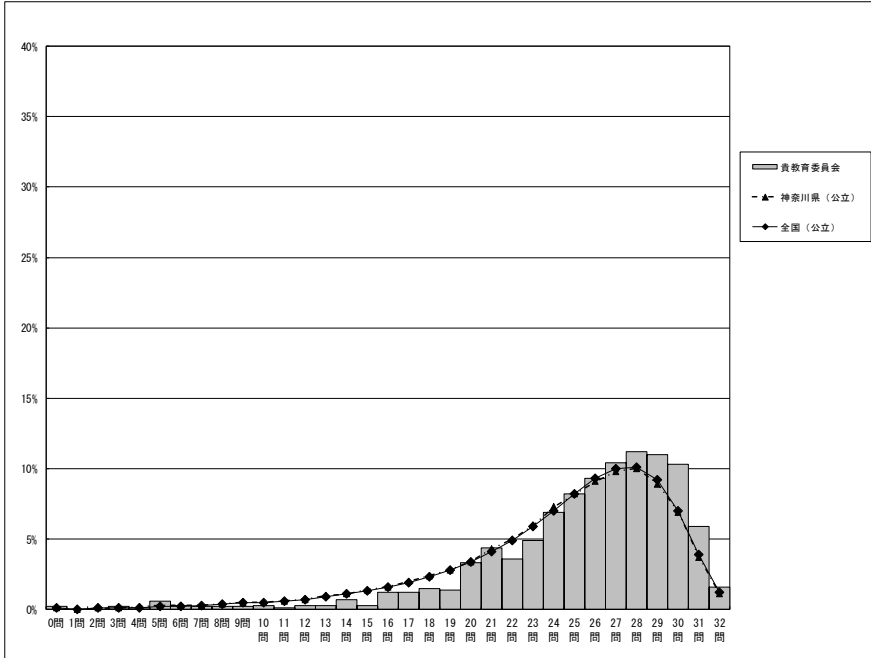
鎌倉市教育委員会-生徒

中学校調査

以下の集計値/グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,138	25.5 / 32	80	27.0	4.9
神奈川県(公立)	64,452	24.2 / 32	76	25.0	5.3
全国(公立)	966,784	24.3 / 32	76.1	26.0	5.3

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)	神奈川県(公立)	全国(公立)
32問	18	1.6	1.1	1.2
31問	67	5.9	3.7	3.9
30問	117	10.3	6.9	7.0
29問	125	11.0	8.9	9.2
28問	128	11.2	10.0	10.1
27問	118	10.4	9.8	10.0
26問	106	9.3	9.1	9.3
25問	93	8.2	8.2	8.2
24問	78	6.9	7.3	7.0
23問	56	4.9	6.0	5.9
22問	41	3.6	5.0	4.9
21問	50	4.4	4.3	4.1
20問	38	3.3	3.4	3.4
19問	16	1.4	2.8	2.8
18問	17	1.5	2.4	2.3
17問	14	1.2	2.0	1.9
16問	14	1.2	1.6	1.6
15問	3	0.3	1.4	1.3
14問	8	0.7	1.1	1.1
13問	3	0.3	1.0	0.9
12問	3	0.3	0.7	0.7
11問	1	0.1	0.6	0.6
10問	3	0.3	0.5	0.5
9問	2	0.2	0.5	0.5
8問	2	0.2	0.4	0.4
7問	2	0.2	0.3	0.3
6問	3	0.3	0.3	0.2
5問	7	0.6	0.3	0.2
4問	1	0.1	0.2	0.1
3問	2	0.2	0.1	0.1
2問	0	0.0	0.1	0.1
1問	0	0.0	0.0	0.0
0問	2	0.2	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	真教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	29.0問	28.0問	28.0問
◇ 第2四分位	27.0問	25.0問	26.0問
▽ 第1四分位	23.0問	22.0問	22.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語B：主として活用]

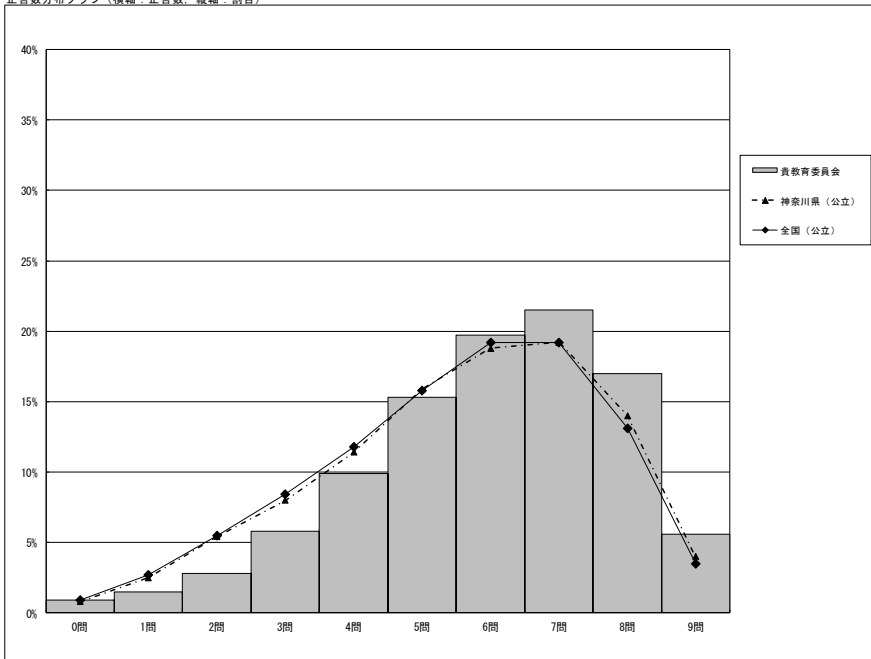
鎌倉市教育委員会-生徒

中学校調査

以下の集計値/グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,138	6.0 / 9	66	6.0	1.9
神奈川県(公立)	64,480	5.6 / 9	62	6.0	2.0
全国(公立)	966,786	5.5 / 9	61.2	6.0	2.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合(%)	神奈川県(公立)	全国(公立)
9問	64	5.6	4.0	3.5
8問	193	17.0	14.0	13.1
7問	245	21.5	19.2	19.2
6問	224	19.7	18.8	19.2
5問	174	15.3	15.9	15.8
4問	113	9.9	11.4	11.8
3問	66	5.8	8.0	8.4
2問	32	2.8	5.4	5.5
1問	17	1.5	2.5	2.7
0問	10	0.9	0.8	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	真教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	7.0問	7.0問	7.0問
◇ 第2四分位	6.0問	6.0問	6.0問
▽ 第1四分位	5.0問	4.0問	4.0問

【中学校 数学A・B】

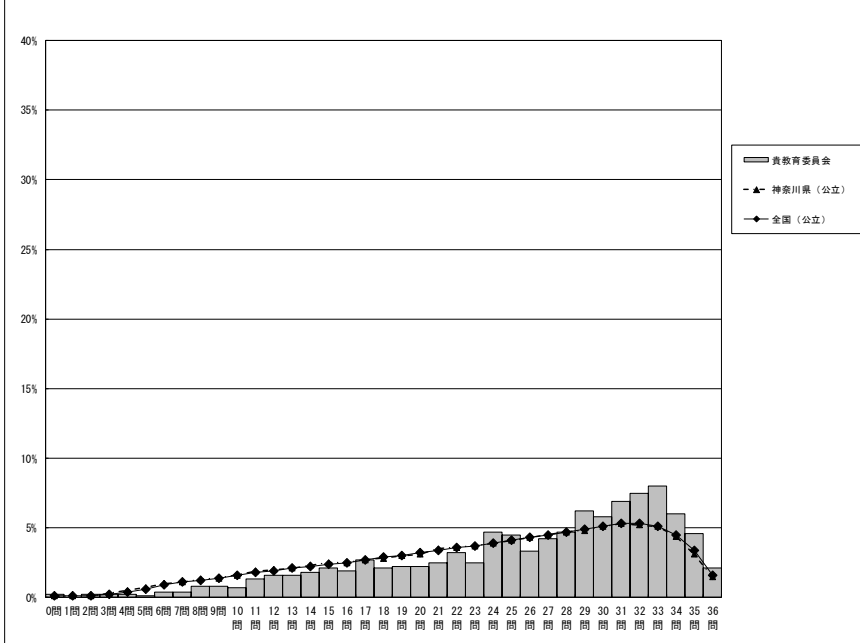
平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学A：主として知識]
 鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,138	25.8 / 36	72	28.0	7.5
神奈川県 (公立)	64,500	23.6 / 36	66	25.0	8.2
全国 (公立)	966,969	23.8 / 36	66.1	25.0	8.1

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)	貴教育委員会	全国 (公立)
36問	24	2.1	1.5	1.6
35問	52	4.6	3.1	3.4
34問	68	6.0	4.4	4.5
33問	91	8.0	5.1	5.1
32問	85	7.5	5.2	5.3
31問	78	6.9	5.3	5.3
30問	66	5.8	5.1	5.1
29問	70	6.2	4.8	4.9
28問	54	4.7	4.7	4.7
27問	48	4.2	4.5	4.5
26問	38	3.3	4.3	4.3
25問	51	4.5	4.1	4.1
24問	53	4.7	3.9	3.9
23問	28	2.5	3.7	3.7
22問	36	3.2	3.6	3.6
21問	29	2.5	3.5	3.4
20問	25	2.2	3.1	3.2
19問	25	2.2	3.0	3.0
18問	24	2.1	2.8	2.9
17問	31	2.7	2.7	2.7
16問	22	1.9	2.5	2.5
15問	24	2.1	2.5	2.4
14問	21	1.8	2.3	2.2
13問	18	1.6	2.1	2.1
12問	18	1.6	2.0	1.9
11問	15	1.3	1.9	1.8
10問	8	0.7	1.6	1.6
9問	9	0.8	1.4	1.4
8問	9	0.8	1.3	1.2
7問	5	0.4	1.1	1.1
6問	4	0.4	1.0	0.9
5問	1	0.1	0.7	0.6
4問	2	0.2	0.5	0.4
3問	2	0.2	0.3	0.2
2問	2	0.2	0.1	0.1
1問	0	0.0	0.1	0.1
0問	2	0.2	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	32.0問	30.0問	31.0問
◇ 第2四分位	28.0問	25.0問	25.0問
▽ 第1四分位	21.0問	18.0問	18.0問

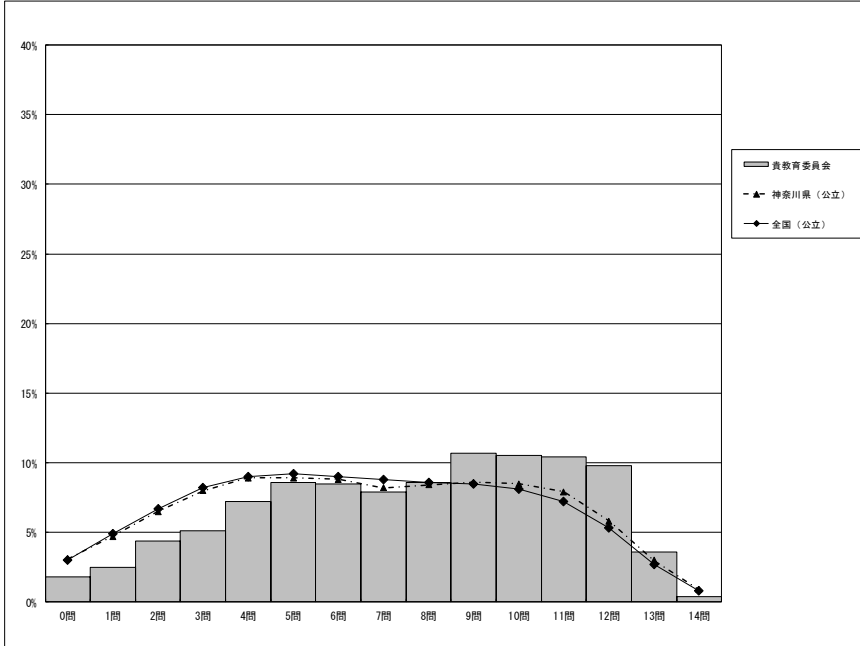
平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学B：主として活用]
 鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,138	7.6 / 14	54	8.0	3.4
神奈川県 (公立)	64,468	6.7 / 14	48	7.0	3.6
全国 (公立)	966,908	6.6 / 14	46.9	7.0	3.5

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)	貴教育委員会	全国 (公立)
14問	4	0.4	0.9	0.8
13問	41	3.6	3.0	2.7
12問	111	9.8	5.8	5.3
11問	118	10.4	7.9	7.2
10問	120	10.5	8.5	8.1
9問	122	10.7	8.6	8.5
8問	98	8.6	8.4	8.6
7問	90	7.9	8.2	8.8
6問	97	8.5	8.8	9.0
5問	98	8.6	8.9	9.2
4問	82	7.2	8.9	9.0
3問	58	5.1	8.0	8.2
2問	50	4.4	6.5	6.7
1問	28	2.5	4.7	4.9
0問	21	1.8	3.1	3.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	10.0問	10.0問	9.0問
◇ 第2四分位	8.0問	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	5.0問	4.0問	4.0問

【中学校 理科】

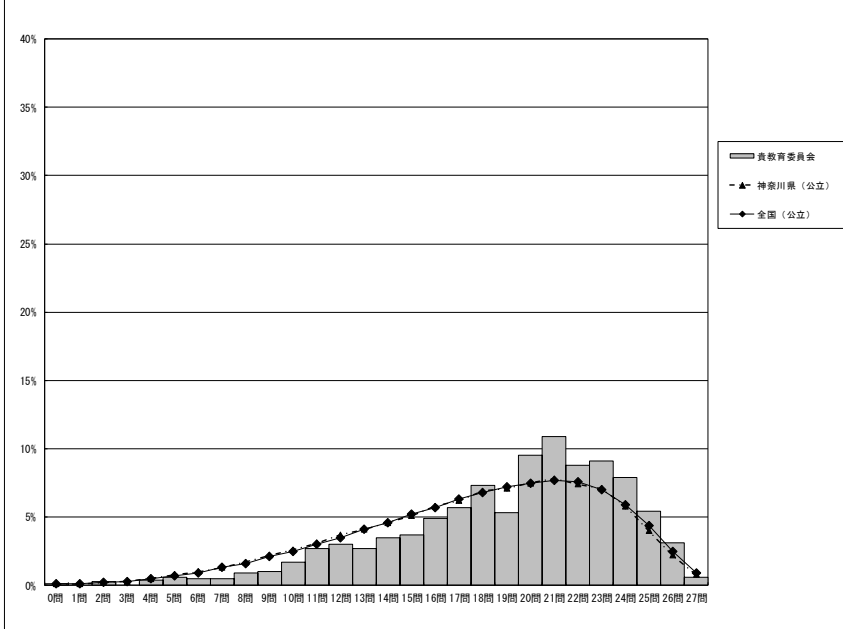
平成30年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 【理科】
鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,138	19.0 / 27	70	20.0	4.8
神奈川県 (公立)	64,460	17.7 / 27	66	18.0	5.2
全国 (公立)	967,188	17.9 / 27	66.1	19.0	5.2

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)		
	鎌倉市教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
27問	7	0.6	0.8	0.9
26問	35	3.1	2.2	2.5
25問	61	5.4	4.0	4.4
24問	90	7.9	5.8	5.9
23問	104	9.1	7.1	7.0
22問	100	8.8	7.4	7.6
21問	124	10.9	7.8	7.7
20問	108	9.5	7.5	7.5
19問	60	5.3	7.1	7.2
18問	83	7.3	6.9	6.8
17問	65	5.7	6.2	6.3
16問	56	4.9	5.8	5.7
15問	42	3.7	5.1	5.2
14問	40	3.5	4.6	4.6
13問	31	2.7	4.1	4.1
12問	34	3.0	3.7	3.5
11問	31	2.7	3.1	3.0
10問	19	1.7	2.6	2.5
9問	11	1.0	2.2	2.1
8問	10	0.9	1.7	1.6
7問	6	0.5	1.3	1.3
6問	6	0.5	1.0	0.9
5問	7	0.6	0.8	0.7
4問	4	0.4	0.5	0.5
3問	0	0.0	0.3	0.3
2問	3	0.3	0.2	0.2
1問	0	0.0	0.1	0.1
0問	1	0.1	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	鎌倉市教育委員会 (公立)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	23.0問	22.0問	22.0問
◇ 第2四分位	20.0問	18.0問	19.0問
▽ 第1四分位	16.0問	14.0問	14.0問